

時間割コード	KB7711	ナンバリング	KB-CRC-135-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	安 龍洙				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

短期海外研修Ⅰ（韓国）

## 授業の概要/Course Overview

この授業では初・中級レベルの韓国語学習者を対象に、日常生活に必要な基礎的な韓国語を学ぶとともに、韓国文化体験（韓服の着付け、Kポップダンス、料理の体験およびフィールドトリップなど）を通して韓国の文化を理解する。

## キーワード/Keyword(s)

韓国語、韓国文化体験、異文化としての韓国文化の理解

## 到達目標/Learning Objectives

- ①初級及び中級の韓国語の4技能（話す・聞く・書く・読む）を駆使し表現できる。
- ②異文化としての韓国の社会、文化を学び、日韓の社会、文化の違いが理解できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：プログラムの概要について理解する。

第2回：現地情報を探し理解する

第3回～15回：仁済大学における【語学研修及び文化体験】に参加する。

【語学研修及び文化体験の概要】

- 1.一クラスを10～15人で編成する。人数が多い場合は、韓国語のレベルによって2～3クラスに分けることもある。
- 2.この研修では韓国語の授業（1コマ90分授業）と韓国文化体験（韓服の着付け、Kポップダンス、料理の体験およびフィールドトリップ）を行う。
- 3.参加者はプレゼンテーション作成のプロジェクト作業のほか、全てのフィールドトリップ終了後にレポートを提出してもらう。
- 4.研修中は、インジェ大学の日語日文学科の教員や学生たちのサポートを受ける予定である。

【授業外学修】

書籍、インターネットなどを通して、自分で現地情報を探し理解すること。また、他大学からの参加者や仁済大学のバディと積極的に交流し異文化理解を深めること。

## 履修上の注意/Notes

- ・授業内容やスケジュールは、現地の都合により変更となる可能性がある。

## 情報端末の活用

授業でPC等は使用しない。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標①②を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。  
A : 到達目標①②を達成し、優れた学修成果を上げている。  
B : 到達目標①②の学修成果を概ね達成している。  
C : 到達目標①②の最低限の到達目標に届いている。  
D : 到達目標①②に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

1. 仁済大学における韓国語研修の成績 (80%)
2. 研修終了後のレポート (20%)  
レポートは「①日韓の違い②異文化体験③研修を通して感じたこと」について1500字程度で作成すること  
提出先 : yongsu.an.prof@vc.ibaraki.ac.jp (レポートをEメールに添付して送ること)

## 教科書/Textbook(s)

備考	仁済大学が指定した教科書・参考書を使う。
----	----------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

その他

### 実務経験のある教員による授業科目

--

### 実践的教育から構成される授業科目

--

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7712	ナンバリング	KB-CRC-135-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	安 龍洙				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

短期海外研修 I（韓国）

## 授業の概要/Course Overview

この授業では初・中級レベルの韓国語学習者を対象に、日常生活に必要な基礎的な韓国語を学ぶとともに、韓国文化体験（韓服の着付け、Kポップダンス、料理の体験およびフィールドトリップなど）を通して韓国の文化を理解する。

## キーワード/Keyword(s)

韓国語、韓国文化体験、異文化としての韓国文化の理解

## 到達目標/Learning Objectives

- ①初級及び中級の韓国語の4技能（話す・聞く・書く・読む）を駆使し表現できる。
- ②異文化としての韓国の社会、文化を学び、日韓の社会、文化の違いが理解できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：プログラムの概要について理解する。

第2回：現地情報を探し理解する

第3回～15回：仁済大学における【語学研修及び文化体験】に参加する。

【語学研修及び文化体験の概要】

- 1.一クラスを10～15人で編成する。人数が多い場合は、韓国語のレベルによって2～3クラスに分けることもある。
- 2.この研修では韓国語の授業（1コマ90分授業）と韓国文化体験（韓服の着付け、Kポップダンス、料理の体験およびフィールドトリップ）を行う。
- 3.参加者はプレゼンテーション作成のプロジェクト作業のほか、全てのフィールドトリップ終了後にレポートを提出してもらう。
- 4.研修中は、インジェ大学の日語日文学科の教員や学生たちのサポートを受ける予定である。

【注】授業内容やスケジュールは、現地の都合により変更となる可能性がある。

【授業外学修】

書籍、インターネットなどを通して、自分で現地情報を探し理解すること。また、他大学からの参加者や仁済大学のパディと積極的に交流し異文化理解を深めること。

## 履修上の注意/Notes

- ・授業内容やスケジュールは、現地の都合により変更となる可能性がある。

## 情報端末の活用

授業でPC等は使用しない。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 到達目標①②を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。

A : 到達目標①②を達成し、優れた学修成果を上げている。

B : 到達目標①②の学修成果を概ね達成している。

C : 到達目標①②の最低限の到達目標に届いている。

D : 到達目標①②に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

1.仁済大学における韓国語研修の成績（80%）

2.研修終了後のレポート（20%）

レポートは「①日韓の違い②異文化体験③研修を通して感じたこと」について1500字程度で作成すること

提出先 : yongsu.an.prof@vc.ibaraki.ac.jp（レポートをEメールに添付して送ること）

## 教科書/Textbook(s)

備考	仁済大学が指定した教科書・参考書を使う。
----	----------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

その他

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7713	ナンバリング	KB-CRC-135-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	池田 庸子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

短期海外研修 I（スペイン）

## 授業の概要/Course Overview

スペインの家庭にホームステイ、または大学で寮生活をしながら、スペインのアルカラ大学で語学研修授業と、文化体験授業を受講する。出発前には危機管理やスペインに関する準備講座を行う。留学先では異文化理解や国際教養を深め、スペイン語の向上と、異文化理解力の強化を目指す。

## キーワード/Keyword(s)

スペイン、スペイン語、異文化理解、語学研修、文化研修、コミュニケーション能力

## 到達目標/Learning Objectives

- ①スペイン語の運用能力を高めることができる。
- ②ホームステイ家族や現地の人との交流を通じて異文化におけるコミュニケーション能力を身に付けることができる。
- ③スペインの文化に触れ、スペインの文化や歴史に対する理解を深めることができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：プログラム説明会（プログラム概要の説明）

第2回：スペインの言語と文化について考える

第3回：スペインの言語と文化についてプレゼンテーション

第4回：危機管理講座、旅行会社による事務手続き

以上の第1～4回までは茨城大学で行う。参加者が全員参加できるよう、参加者の時間割を調整したうえで、授業時間を決定する。

第5～14回：アルカラ大学における語学研修及び文化体験に参加する。

【語学研修】

1限目が9：00～11：00、2限目が11：30～13：30となる。

平日の授業は、1日4時間、うち2時間は文法中心、残りの2時間は会話中心のレッスンとなる。

様々な手法のアクティブラーニングにより、主体的にスペイン語によるコミュニケーション力の向上を図る。

【文化体験授業】

休日や午後の空き時間を利用して、バルセロナ見学、世界遺産セゴビア見学、美術館見学等、多様な文化研修に参加することができる。

第15回：帰国報告会・帰国報告書の提出

【授業外学修】

(1) 渡航前の事前研修ではスペインに関する本を一冊読み、その本に関するプレゼンテーションを行う。本はスペインの文化、経済、歴史、芸術等から自身の興味に合わせて選ぶこと。ただし、一般的なガイドブックは対象としない。

(2) 海外研修期間中は授業で出される課題を行うことはもちろん、予習・復習を行う。また多くの課外授業で訪問する場所に関して事前に調

べて、予備知識を持って訪問すること。

(3) 帰国後は最終レポートを提出する。3週間の研修で学んだことを振り返り、レポートにまとめる。

#### 【アクティブラーニング】

(1) 渡航前の研修では、自ら選んだ分野に関して本を読み発表する。

(2) 現地では生活そのものが学びととらえ、積極的に現地の人等と交流する。

## 履修上の注意/Notes

(1) 履修希望者は決められた期日までに旅行会社に研修を申し込むこと。

(2) 短期海外研修Ⅰと短期海外研修Ⅱの両方を登録すること。

(3) 研修費用は、参加期間・人数により異なるが、約35万～45万円の予定。詳細は事前説明会で提供する。

## 情報端末の活用

(1) 渡航前の事前研修ではPC等は特に必要としない。

(2) 海外研修中の情報端末に関してはガイダンス等で情報提供を行う。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：アルカラ大学から提供される成績で極めて優れた成績を収め、事前研修及びレポートの到達目標を十分に達成している。

A：アルカラ大学から提供される成績で優れた成績を収め、事前研修及びレポートの到達目標を達成している。

B：アルカラ大学から提供される成績で標準的な成績を収め、事前研修及びレポートの到達目標を概ね達成している。

C：アルカラ大学から提供される成績で最低限の成績を収め、事前研修及びレポートの最低限の到達目標を達成している。

D：アルカラ大学から提供される成績、事前研修、レポートの到達目標に届いていない。

## 成績の評価方法/Grading

日本での事前研修（ブックレポートの発表）：15%

アルカラ大学における成績証明書：70%

研修後のレポート：15%

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	はじめてのスペイン語
著者名	東谷穎人 著
出版社	講談社
出版年	1994
ISBN	4061491830
教材費	600

### 参考書2

書名	概説近代スペイン文化史：18世紀から現代まで
----	------------------------

著者名	立石博高 編著
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2015
ISBN	9784623066759
教材費	3200

参考書3

書名	現代スペイン読本：知っておきたい文化・社会・民族
著者名	川成洋, 坂東省次 編
出版社	丸善
出版年	2008
ISBN	9784621080535
教材費	2000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7714	ナンバリング	KB-CRC-135-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	池田 庸子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

短期海外研修 I（スペイン）

## 授業の概要/Course Overview

スペインの家庭にホームステイ、または大学で寮生活をしながら、スペインのアルカラ大学で語学研修授業と、文化体験授業を受講する。出発前には危機管理やスペインに関する準備講座を行う。留学先では異文化理解や国際教養を深め、スペイン語の向上と、異文化理解力の強化を目指す。

## キーワード/Keyword(s)

スペイン、スペイン語、異文化理解、語学研修、文化研修、コミュニケーション能力

## 到達目標/Learning Objectives

- ①スペイン語の運用能力を高めることができる。
- ②ホームステイ家族や現地の人との交流を通じて異文化におけるコミュニケーション能力を身に付けることができる。
- ③スペインの文化に触れ、スペインの文化や歴史に対する理解を深めることができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：プログラム説明会（プログラム概要の説明）

第2回：スペインの言語と文化について考える

第3回：スペインの言語と文化についてプレゼンテーション

第4回：危機管理講座、旅行会社による事務手続き

以上の第1～4回までは茨城大学で行う。参加者が全員参加できるよう、参加者の時間割を調整したうえで、授業時間を決定する。

第5～14回：アルカラ大学における語学研修及び文化体験に参加する。

【語学研修】

1限目が9：00～11：00、2限目が11：30～13：30となる。

平日の授業は、1日4時間、うち2時間は文法中心、残りの2時間は会話中心のレッスンとなる。

様々な手法のアクティブラーニングにより、主体的にスペイン語によるコミュニケーション力の向上を図る。

【文化体験授業】

休日や午後の空き時間を利用して、バルセロナ見学、世界遺産セゴビア見学、美術館見学等、多様な文化研修に参加することができる。

第15回：帰国報告会・帰国報告書の提出

【授業外学修】

(1) 渡航前の事前研修ではスペインに関する本を一冊読み、その本に関するプレゼンテーションを行う。本はスペインの文化、経済、歴史、芸術等から自身の興味に合わせて選ぶこと。ただし、一般的なガイドブックは対象としない。

(2) 海外研修期間中は授業で出される課題を行うことはもちろん、予習・復習を行う。また多くの課外授業で訪問する場所に関して事前に調

べて、予備知識を持って訪問すること。

(3) 帰国後は最終レポートを提出する。3週間の研修で学んだことを振り返り、レポートにまとめる。

#### 【アクティブラーニング】

(1) 渡航前の研修では、自ら選んだ分野に関して本を読み発表する。

(2) 現地では生活そのものが学びととらえ、積極的に現地の人等と交流する。

## 履修上の注意/Notes

(1) 履修希望者は決められた期日までに旅行会社に研修を申し込むこと。

(2) 短期海外研修Ⅰと短期海外研修Ⅱの両方を登録すること。

(3) 研修費用は、参加期間・人数により異なるが、約35万～45万円の予定。詳細は事前説明会で提供する。

## 情報端末の活用

(1) 渡航前の事前研修ではPC等は特に必要としない。

(2) 海外研修中の情報端末に関してはガイダンス等で情報提供を行う。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：アルカラ大学から提供される成績で極めて優れた成績を収め、事前研修及びレポートの到達目標を十分に達成している。

A：アルカラ大学から提供される成績で優れた成績を収め、事前研修及びレポートの到達目標を達成している。

B：アルカラ大学から提供される成績で標準的な成績を収め、事前研修及びレポートの到達目標を概ね達成している。

C：アルカラ大学から提供される成績で最低限の成績を収め、事前研修及びレポートの最低限の到達目標を達成している。

D：アルカラ大学から提供される成績、事前研修、レポートの到達目標に届いていない。

## 成績の評価方法/Grading

日本での事前研修（ブックレポートの発表）：15%

アルカラ大学における成績証明書：70%

研修後のレポート：15%

## 教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	はじめてのスペイン語
著者名	東谷穎人 著
出版社	講談社
出版年	1994
ISBN	4061491830
教材費	600

### 参考書2

書名	概説近代スペイン文化史：18世紀から現代まで
----	------------------------

著者名	立石博高 編著
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2015
ISBN	9784623066759
教材費	3200

参考書3

書名	現代スペイン読本：知っておきたい文化・社会・民族
著者名	川成洋, 坂東省次 編
出版社	丸善
出版年	2008
ISBN	9784621080535
教材費	2000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7715	ナンバリング	KB-CRC-133-JEP,GEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	瀬尾 匡輝				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

短期海外研修 I（ブルネイ）

## 授業の概要/Course Overview

ブルネイ・ダルサラーム大学にて英語語学研修を受講する。研修では英語の学習だけではなく、モスクや水上集落、マングローブ林、クアラ・ブラロン野外調査センター、サゴ工場見学などへのフィールドトリップを通して現地の社会・自然文化の理解も試みる。履修にあたっては、事前・事後学習を必修とする。

## キーワード/Keyword(s)

ブルネイ、World Englishes、語学研修、社会・自然文化の理解

## 到達目標/Learning Objectives

1. 英語の話す・聞く・書く・読むの4技能の向上を目指し、それらの運用力を身につける。
2. ブルネイの社会・自然文化について理解できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 プログラム説明会（プログラム概要の説明）

第2回 ブルネイについて知る

第3回 危機管理講座、旅行会社による事務手続き

以上の第1～3回までは茨城大学で行う。参加者が全員参加できるように、参加者の時間割を調整したうえで、授業時間を決定する。

第4回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第5回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第6回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第7回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第8回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第9回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第10回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第11回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第12回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第13回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第14回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

【語学研修】

滞在中は基本1日4時間（午前9:00～11:00、午後2:00～4:00）英語を学習する。

英語の授業は、Reading, Writing, Speaking, Listeningに分かれており、4技能の総合的な向上を目指す。

【文化体験授業】

モスクや水上集落、マングローブ林、クアラ・ブラロン野外調査センター、サゴ工場見学などへのフィールドトリップに参加する。

#### 第15回 帰国報告会/フィールドワークレポート・帰国報告書の提出

##### 【授業外学修】

##### 渡航前の事前研修

- (1) ブルネイの文化や歴史などに関する書籍を読み、ブルネイに関する理解を深める。
- (2) 教室外でグループで会い、フィールドワークレポートのテーマを何にするかを話し合い、そのテーマについて調べる。そして、調べた内容を渡航前の事前研修で報告する。

##### 海外研修期間中

- (1) 授業で出される課題を行うことはもちろん、予習・復習を行う。
- (2) フィールドワークレポート執筆のための情報収集を行う。写真や動画などを積極的に撮り、ブルネイ・ダルサラーム大学の学生に対するインタビュー・アンケート調査を行う。
- (3) 課外授業で訪問する場所について事前に調べて、予備知識を持って訪問する。
- (4) ブルネイ・ダルサラーム大学の学生サポート「バディ」と積極的に交流する。

##### 帰国後

- (1) グループによるフィールドワークをまとめたレポートと1か月の研修で学んだことをまとめたふりかえりレポートを提出する。

##### 【アクティブラーニング】

##### 渡航前の事前研修

受講生が各自ブルネイや東南アジアに関する資料を持ってくる。そして、それについて考えたことをペアやグループで話し合う。現地の情報を収集し、それをまとめることにより、ブルネイに行くための事前学習とする。

##### 海外研修期間中

ブルネイ・ダルサラーム大学では、ペア・グループワークを多用したアクティブラーニング型の授業が行われる。加えて、滞在中は現地の学生と協働でフィールドワーク調査を行い、ブルネイの社会・自然文化についての理解を深め、相手の価値観や文化を尊重しつつ自身の意見を述べられるようになることを目指す。

##### 帰国後

帰国後は、研修に参加した体験談を含めた帰国報告書を提出するとともに、フィールドワークを基にしたレポートを作成する。執筆の過程では、ピアレスポンス活動を行い、レポートを推敲する。

## 履修上の注意/Notes

5月下旬までに【締切日は4月頃確定】グローバル教育センターに申し込んだ者のみが参加できる。  
応募多数の場合は、志望理由をもとに選考を行う【最小催行人数10名】。  
研修費用（研修参加費・宿泊費・航空券・現地での食費・フィールドトリップ参加費・海外旅行傷害保険代含む）は、25万円前後を予定している【費用は4月頃確定】。

## 情報端末の活用

事前研修及び海外研修期間中にPCを使用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：事前研修及びレポートの到達目標を十分に達成している。
- A：事前研修及びレポートの到達目標を達成している。
- B：事前研修及びレポートの到達目標を概ね達成している。
- C：事前研修及びレポートの最低限の到達目標を達成している。
- D：事前研修及びレポートの到達目標に届いていない。

## 成績の評価方法/Grading

1. 事前研修への積極的参加及び貢献度 10%
2. ウィークリーレポート 10%×3回=30%
3. フィールドワークレポートの作成 30%
4. 帰国報告書の作成 30%

## 教科書/Textbook(s)

### 教科書1

書名	地球の歩き方 Plat ブルネイ
著者名	地球の歩き方編集室 (編集)
出版社	ダイヤモンド・ビッグ社
出版年	2019
ISBN	9784478823361
教材費	1300

### 教科書2

書名	ブルネイってどんなところ？
著者名	茨城大学2018年度ブルネイ短期研修参加者、 瀬尾匡輝
出版社	茨城大学グローバル教育センター
出版年	2019
ISBN	
教材費	1760

備考	特に使用しない
----	---------

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

○
---

## PBL科目

○
---

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日英併用
------

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7716	ナンバリング	KB-CRC-133-JEP,GEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	瀬尾 匡輝				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

短期海外研修Ⅱ（ブルネイ）

## 授業の概要/Course Overview

ブルネイ・ダルサラーム大学にて英語語学研修を受講する。研修では英語の学習だけではなく、モスクや水上集落、マングローブ林、クアラ・ブラロン野外調査センター、サゴ工場見学などへのフィールドトリップを通して現地の社会・自然文化の理解も試みる。履修にあたっては、事前・事後学習を必修とする。

## キーワード/Keyword(s)

ブルネイ、World Englishes、語学研修、社会・自然文化の理解

## 到達目標/Learning Objectives

1. 英語の話す・聞く・書く・読むの4技能の向上を目指し、それらの運用力を身につける。
2. ブルネイの社会・自然文化について理解できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 プログラム説明会（プログラム概要の説明）

第2回 ブルネイについて知る

第3回 危機管理講座、旅行会社による事務手続き

以上の第1～3回までは茨城大学で行う。参加者が全員参加できるよう、参加者の時間割を調整したうえで、授業時間を決定する。

第4回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第5回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第6回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第7回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第8回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第9回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第10回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第11回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第12回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第13回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

第14回 ブルネイ・ダルサラーム大学での語学研修及び文化体験

【語学研修】

滞在中は基本1日4時間（午前9:00～11:00、午後2:00～4:00）英語を学習する。

英語の授業は、Reading, Writing, Speaking, Listeningに分かれており、4技能の総合的な向上を目指す。

【文化体験授業】

モスクや水上集落、マングローブ林、クアラ・ブラロン野外調査センター、サゴ工場見学などへのフィールドトリップに参加する。

#### 第15回 帰国報告会/フィールドワークレポート・帰国報告書の提出

##### 【授業外学修】

##### 渡航前の事前研修

- (1) ブルネイの文化や歴史などに関する書籍を読み、ブルネイに関する理解を深める。
- (2) 教室外でグループで会い、フィールドワークレポートのテーマを何にするかを話し合い、そのテーマについて調べる。そして、調べた内容を渡航前の事前研修で報告する。

##### 海外研修期間中

- (1) 授業で出される課題を行うことはもちろん、予習・復習を行う。
- (2) フィールドワークレポート執筆のための情報収集を行う。写真や動画などを積極的に撮り、ブルネイ・ダルサラーム大学の学生に対するインタビュー・アンケート調査を行う。
- (3) 課外授業で訪問する場所について事前に調べて、予備知識を持って訪問する。
- (4) ブルネイ・ダルサラーム大学の学生サポート「バディ」と積極的に交流する。

##### 帰国後

- (1) グループによるフィールドワークをまとめたレポートと1か月の研修で学んだことをまとめたふりかえりレポートを提出する。

##### 【アクティブラーニング】

##### 渡航前の事前研修

受講生が各自ブルネイや東南アジアに関する資料を持ってくる。そして、それについて考えたことをペアやグループで話し合う。現地の情報を収集し、それをまとめることにより、ブルネイに行くための事前学習とする。

##### 海外研修期間中

ブルネイ・ダルサラーム大学では、ペア・グループワークを多用したアクティブラーニング型の授業が行われる。加えて、滞在中は現地の学生と協働でフィールドワーク調査を行い、ブルネイの社会・自然文化についての理解を深め、相手の価値観や文化を尊重しつつ自身の意見を述べられるようになることを目指す。

##### 帰国後

帰国後は、研修に参加した体験談を含めた帰国報告書を提出するとともに、フィールドワークを基にしたレポートを作成する。執筆の過程では、ピアレスポンス活動を行い、レポートを推敲する。

## 履修上の注意/Notes

5月下旬までに【締切日は4月頃確定】グローバル教育センターに申し込んだ者のみが参加できる。

応募多数の場合は、志望理由をもとに選考を行う【最小催行人数10名】。

研修費用（研修参加費・宿泊費・航空券・現地での食費・フィールドトリップ参加費・海外旅行傷害保険代含む）は、25万円前後を予定している【費用は4月頃確定】。

## 情報端末の活用

事前研修及び海外研修期間中にPCを使用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：事前研修及びレポートの到達目標を十分に達成している。
- A：事前研修及びレポートの到達目標を達成している。
- B：事前研修及びレポートの到達目標を概ね達成している。
- C：事前研修及びレポートの最低限の到達目標を達成している。
- D：事前研修及びレポートの到達目標に届いていない。

## 成績の評価方法/Grading

1. 事前研修への積極的参加及び貢献度 10%
2. ウィークリーレポート 10%×3回=30%
3. フィールドワークレポートの作成 30%
4. 帰国報告書の作成 30%

## 教科書/Textbook(s)

### 教科書1

書名	地球の歩き方 Plat ブルネイ
著者名	地球の歩き方編集室 (編集)
出版社	ダイヤモンド・ビッグ社
出版年	2019
ISBN	9784478823361
教材費	1300

### 教科書2

書名	ブルネイってどんなところ？
著者名	茨城大学2018年度ブルネイ短期研修参加者、 瀬尾匡輝
出版社	茨城大学グローバル教育センター
出版年	2019
ISBN	
教材費	1760

備考	特に使用しない
----	---------

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

○
---

## PBL科目

○
---

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日英併用
------

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7719	ナンバリング	KB-CRC-133-JEP,GEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

短期海外研修 I（オーストラリア）

## 授業の概要/Course Overview

オーストラリア・カーティン大学にて英語語学研修を受講する。研修では英語の学習だけではなく、現地家族宅で3週間のホームステイを体験し、週末には自然豊かなパース州近郊を周り、西オーストラリアの文化や歴史について学ぶ。履修にあたっては、事前・事後学習を必修とする。

## キーワード/Keyword(s)

オーストラリア、English communication、語学研修、社会・文化の理解

## 到達目標/Learning Objectives

1. 英語の話す・聞く・書く・読むの4技能の向上を目指し、それらの運用能力を身につける。
2. オーストラリアの社会、文化、現在の国内問題などについて理解する。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：オリエンテーション、自己紹介、プログラム概要の説明

第2回：オーストラリアについて知る

第3回：危機管理講座、旅行会社による事務手続き

以上の第1～3回までは茨城大学で行う。参加者が全員参加できるよう、参加者の時間割を調整したうえで、授業時間を決定する。

第4回～14回：カーティン大学での語学研修及び文化体験に参加する。

### 【語学研修】

研修期間は夏期休暇期間中（8月中旬～9月中旬）の間の3週間を予定している。

滞在中は基本1日4時間（午前10:00～12:00、午後2:00～4:00）英語を学習する。

英語の授業は、Reading, Writing, Speaking, Listeningの4技能の総合的な向上を目指す。

\*なお、渡航前にクラス分けのテストを実施する予定である。

### 【文化体験授業】

ホームステイや週末のExcursionを通して、現地の文化について学ぶ。また、他の語学研修生や現地の学生と交流する事により国際的環境におけるコミュニケーション力を向上させる。

第15回：帰国報告会・帰国報告書の提出

### 【授業外学修】

#### <渡航前の事前研修>

- ・オーストラリアの文化、歴史、また現在起きている社会問題などに関するニュースや書籍を読み、調べたことを授業内で報告する。

#### <海外研修期間中>

- ・授業で出される課題を行うことはもちろん、予習・復習を行う。

#### <帰国後>

- ・研修で学んだことをまとめたふりかえり、レポートを提出する。

#### 【アクティブラーニング】

#### <渡航前の事前研修>

- ・現地の情報を収集し、それをまとめることにより、事前学習を行う。
- ・調べたことを授業内でペア、グループで発表する。

#### <海外研修期間中>

研修では、4技能の習得を目指したアクティブラーニング型の授業が行われる。

#### <帰国後>

帰国後は、研修に参加した体験を含めた帰国報告書を提出する。

## 履修上の注意/Notes

- 1) 5月下旬までに、グローバル教育センターのフォームにて申し込みを行った学生のみが参加できる。
- 2) 応募者多数の場合は、志望理由書をもとに選考を行う。
- 3) 費用は研修費、現地での空港送迎費用、3週間のホームステイ費用（食事含む）、往復航空運賃などを含め約40万円（2019年実績）。※費用は変更になる場合があります。

## 情報端末の活用

- ・報告書の提出は教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：事前研修及びレポートの到達目標を十分に達成している。
- A：事前研修及びレポートの到達目標を達成している。
- B：事前研修及びレポートの到達目標を概ね達成している。
- C：事前研修及びレポートの最低限の到達目標を達成している。
- D：事前研修及びレポートの到達目標に届いていない。

## 成績の評価方法/Grading

- 事前授業への積極的な参加（10%）
- カーティン大学における語学研修（70%）
- 最終レポート（20%）

## 教科書/Textbook(s)

備考	研修で指定されたもの
----	------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input checked="" type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

事前・事後学習：日本語  
研修中：英語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7720	ナンバリング	KB-CRC-133-JEP,GEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

短期海外研修Ⅱ(オーストラリア)

## 授業の概要/Course Overview

オーストラリア・カーティン大学にて英語語学研修を受講する。研修では英語の学習だけでなく、現地家族宅で3週間のホームステイを体験し、週末には自然豊かなパース州近郊を周り、西オーストラリアの文化や歴史について学ぶ。履修にあたっては、事前・事後学習を必修とする。

## キーワード/Keyword(s)

オーストラリア、English communication、語学研修、社会・文化の理解

## 到達目標/Learning Objectives

1. 英語の話す・聞く・書く・読むの4技能の向上を目指し、それらの運用能力を身につける。
2. オーストラリアの社会、文化、現在の国内問題などについて理解する。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：オリエンテーション、自己紹介、プログラム概要の説明

第2回：オーストラリアについて知る

第3回：危機管理講座、旅行会社による事務手続き

以上の第1～3回までは茨城大学で行う。参加者が全員参加できるよう、参加者の時間割を調整したうえで、授業時間を決定する。

第4回～14回：カーティン大学での語学研修及び文化体験に参加する。

### 【語学研修】

研修期間は夏期休暇期間中（8月中旬～9月中旬）の間の3週間を予定している。

滞在中は基本1日4時間（午前10:00～12:00、午後2:00～4:00）英語を学習する。

英語の授業は、Reading, Writing, Speaking, Listeningの4技能の総合的な向上を目指す。

\*なお、渡航前にクラス分けのテストを実施する予定である。

### 【文化体験授業】

ホームステイや週末のExcursionを通して、現地の文化について学ぶ。また、他の語学研修生や現地の学生と交流する事により国際的環境におけるコミュニケーション力を向上させる。

第15回：帰国報告会・帰国報告書の提出

### 【授業外学修】

#### <渡航前の事前研修>

- ・オーストラリアの文化、歴史、また現在起きている社会問題などに関するニュースや書籍を読み、調べたことを授業内で報告する。

#### <海外研修期間中>

- ・授業で出される課題を行うことはもちろん、予習・復習を行う。

#### <帰国後>

- ・研修で学んだことをまとめたふりかえり、レポートを提出する。

#### 【アクティブラーニング】

#### <渡航前の事前研修>

- ・現地の情報を収集し、それをまとめることにより、事前学習を行う。
- ・調べたことを授業内でペア、グループで発表する。

#### <海外研修期間中>

研修では、4技能の習得を目指したアクティブラーニング型の授業が行われる。

#### <帰国後>

帰国後は、研修に参加した体験を含めた帰国報告書を提出する。

## 履修上の注意/Notes

- 1) 5月下旬までに、グローバル教育センターのフォームにて申し込みを行った学生のみが参加できる。
- 2) 応募者多数の場合は、志望理由書をもとに選考を行う。
- 3) 費用は研修費、現地での空港送迎費用、3週間のホームステイ費用（食事含む）、往復航空運賃などを含め約40万円（2019年実績）。※費用は変更になる場合があります。

## 情報端末の活用

- ・報告書の提出は教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：事前研修及びレポートの到達目標を十分に達成している。
- A：事前研修及びレポートの到達目標を達成している。
- B：事前研修及びレポートの到達目標を概ね達成している。
- C：事前研修及びレポートの最低限の到達目標を達成している。
- D：事前研修及びレポートの到達目標に届いていない。

## 成績の評価方法/Grading

- 事前授業への積極的な参加（10%）
- カーティン大学における語学研修（70%）
- 最終レポート（20%）

## 教科書/Textbook(s)

備考	研修で指定されたもの
----	------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input checked="" type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

事前・事後学習：日本語  
研修中：英語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7721	ナンバリング	KB-CRC-133-JEP,GEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	瀬尾 匡輝				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

短期海外研修 I（マレーシア）

## 授業の概要/Course Overview

マレーシア科学大学にて英語語学研修を受講する。研修では英語の学習だけではなく、街並み自体が世界遺産として認定されているジョージタウンで、文化体験活動や1泊2日のホームステイ、現地の学生との交流活動に参加し、現地の社会・文化の理解も試みる。履修にあたっては、事前・事後学習を必修とする。

## キーワード/Keyword(s)

マレーシア、World Englishes、語学研修、社会・文化の理解

## 到達目標/Learning Objectives

1. 英語の話す・聞く・書く・読むの4技能の向上を目指し、その運用力を身につける。
2. マレーシアの社会・文化について理解できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 プログラム説明会（プログラム概要の説明）

第2回 マレーシア・ペナン島について知る

第3回 危機管理講座、旅行会社による事務手続き

以上の第1～3回までは茨城大学で行う。参加者が全員参加できるように、参加者の時間割を調整したうえで、授業時間を決定する。

第4回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第5回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第6回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第7回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第8回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第9回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第10回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第11回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第12回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第13回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第14回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

【語学研修】

滞在中は基本1日4時間（午前10:00～12:00、午後2:00～4:00）英語を学習する。

英語の授業は、Reading, Writing, Speaking, Listeningに分かれており、4技能の総合的な向上を目指す。

【文化体験授業】

マレーシア科学大学内の博物館へのフィールドトリップ、マレーシアの伝統的音楽に関するワークショップ、1泊2日のホームステイ、現地の学生との交流に参加する（予定）。

#### 第15回 帰国報告会/フィールドワークレポート・帰国報告書の提出

##### 【授業外学修】

##### 渡航前の事前研修

- (1) マレーシア・ベナン島の文化や歴史などに関する書籍を読み、マレーシア・ベナン島に関する理解を深める。
- (2) 教室外でグループで会い、フィールドワークレポートのテーマを何にするかを話し合い、そのテーマについて調べる。そして、調べた内容を渡航前の事前研修で報告する。

##### 海外研修期間中

- (1) 授業で出される課題を行うことはもちろん、予習・復習を行う。
- (2) フィールドワークレポート執筆のための情報収集を行う。写真や動画などを積極的に撮り、マレーシア科学大学の学生に対するインタビュー・アンケート調査を行う。
- (3) 課外授業で訪問する場所について事前に調べて、予備知識を持って訪問する。
- (4) マレーシア科学大学の学生サポート「バディ」と積極的に交流する。

##### 帰国後

- (1) グループによるフィールドワークをまとめたレポートと1か月の研修で学んだことをまとめたふりかえりレポートを提出する。

##### 【アクティブラーニング】

##### 渡航前の事前研修

受講生が各自マレーシアや東南アジアに関する資料を持ってくる。そして、それについて考えたことをペアやグループで話し合う。現地の情報を収集し、それをまとめることにより、マレーシアに行くための事前学習とする。

##### 海外研修期間中

マレーシア科学大学では、ペア・グループワークを多用したアクティブラーニング型の授業が行われる。加えて、滞在中は現地の学生と協働でフィールドワーク調査を行い、マレーシア・ベナン島の社会・文化についての理解を深め、相手の価値観や文化を尊重しつつ自身の意見を述べられるようになることを目指す。

##### 帰国後

帰国後は、研修に参加した体験談を含めた帰国報告書を提出するとともに、フィールドワークを基にしたレポートを作成する。執筆の過程では、ピアレスポンス活動を行い、レポートを推敲する。

## 履修上の注意/Notes

12月上旬までに【締切日は10月頃確定】グローバル教育センターに申し込んだ者のみが参加できる。

応募多数の場合は、志望理由をもとに選考を行う【最小催行人数5名、最大20名】。

研修費用は、20万円前後を予定している【費用は10月頃確定】。

## 情報端末の活用

事前研修及び海外研修期間中にPCを使用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：事前研修及びレポートの到達目標を十分に達成している。

A：事前研修及びレポートの到達目標を達成している。

B：事前研修及びレポートの到達目標を概ね達成している。

C：事前研修及びレポートの最低限の到達目標を達成している。

D：事前研修及びレポートの到達目標に届いていない。

## 成績の評価方法/Grading

1. 事前研修への積極的参加及び貢献度 10%
2. ウィークリーレポート 30%×3回=90%

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	地球の歩き方 マレーシア ブルネイ 2020~2021
著者名	地球の歩き方編集室 編集
出版社	ダイヤモンド・ビッグ社
出版年	2019
ISBN	978-4478824108
教材費	1700

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

○

### PBL科目

○

### 地域志向科目

### 使用言語

日英併用

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7722	ナンバリング	KB-CRC-133-JEP,GEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	瀬尾 匡輝				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

短期海外研修Ⅱ（マレーシア）

## 授業の概要/Course Overview

マレーシア科学大学にて英語語学研修を受講する。研修では英語の学習だけではなく、街並み自体が世界遺産として認定されているジョージタウンで、文化体験活動や1泊2日のホームステイ、現地の学生との交流活動に参加し、現地の社会・文化の理解も試みる。履修にあたっては、事前・事後学習を必修とする。

## キーワード/Keyword(s)

マレーシア、World Englishes、語学研修、社会・文化の理解

## 到達目標/Learning Objectives

1. 英語の話す・聞く・書く・読むの4技能の向上を目指し、その運用力を身につける。
2. マレーシアの社会・文化について理解できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 プログラム説明会（プログラム概要の説明）

第2回 マレーシア・ペナン島について知る

第3回 危機管理講座、旅行会社による事務手続き

以上の第1～3回までは茨城大学で行う。参加者が全員参加できるよう、参加者の時間割を調整したうえで、授業時間を決定する。

第4回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第5回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第6回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第7回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第8回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第9回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第10回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第11回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第12回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第13回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

第14回 マレーシア科学大学での語学研修及び文化体験

【語学研修】

滞在中は基本1日4時間（午前10:00～12:00、午後2:00～4:00）英語を学習する。

英語の授業は、Reading, Writing, Speaking, Listeningに分かれており、4技能の総合的な向上を目指す。

【文化体験授業】

マレーシア科学大学内の博物館へのフィールドトリップ、マレーシアの伝統的音楽に関するワークショップ、1泊2日のホームステイ、現地の学生との交流に参加する（予定）。

#### 第15回 帰国報告会/フィールドワークレポート・帰国報告書の提出

##### 【授業外学修】

##### 渡航前の事前研修

- (1) マレーシア・ベナン島の文化や歴史などに関する書籍を読み、マレーシア・ベナン島に関する理解を深める。
- (2) 教室外でグループで会い、フィールドワークレポートのテーマを何にするかを話し合い、そのテーマについて調べる。そして、調べた内容を渡航前の事前研修で報告する。

##### 海外研修期間中

- (1) 授業で出される課題を行うことはもちろん、予習・復習を行う。
- (2) フィールドワークレポート執筆のための情報収集を行う。写真や動画などを積極的に撮り、マレーシア科学大学の学生に対するインタビュー・アンケート調査を行う。
- (3) 課外授業で訪問する場所について事前に調べて、予備知識を持って訪問する。
- (4) マレーシア科学大学の学生サポート「バディ」と積極的に交流する。

##### 帰国後

- (1) グループによるフィールドワークをまとめたレポートと1か月の研修で学んだことをまとめたふりかえりレポートを提出する。

##### 【アクティブラーニング】

##### 渡航前の事前研修

受講生が各自マレーシアや東南アジアに関する資料を持ってくる。そして、それについて考えたことをペアやグループで話し合う。現地の情報を収集し、それをまとめることにより、マレーシアに行くための事前学習とする。

##### 海外研修期間中

マレーシア科学大学では、ペア・グループワークを多用したアクティブラーニング型の授業が行われる。

加えて、滞在中は現地の学生と協働でフィールドワーク調査を行い、マレーシア・ベナン島の社会・文化についての理解を深め、相手の価値観や文化を尊重しつつ自身の意見を述べられるようになることを目指す。

##### 帰国後

帰国後は、研修に参加した体験談を含めた帰国報告書を提出するとともに、フィールドワークを基にしたレポートを作成する。執筆の過程では、ピアレスポンス活動を行い、レポートを推敲する。

## 履修上の注意/Notes

12月上旬までに【締切日は10月頃確定】グローバル教育センターに申し込んだ者のみが参加できる。

応募多数の場合は、志望理由をもとに選考を行う【最小催行人数5名、最大20名】。

研修費用は、20万円前後を予定している【費用は10月頃確定】。

## 情報端末の活用

事前研修及び海外研修期間中にPCを使用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：事前研修及びレポートの到達目標を十分に達成している。

A：事前研修及びレポートの到達目標を達成している。

B：事前研修及びレポートの到達目標を概ね達成している。

C：事前研修及びレポートの最低限の到達目標を達成している。

D：事前研修、レポートの到達目標に届いていない。

## 成績の評価方法/Grading

1. 事前研修への積極的参加及び貢献度 10%
2. ウィークリーレポート 30%×3回=90%

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	地球の歩き方 マレーシア ブルネイ 2020~2021
著者名	地球の歩き方編集室 編集
出版社	ダイヤモンド・ビッグ社
出版年	2019
ISBN	978-4478824108
教材費	1700

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

○

### PBL科目

○

### 地域志向科目

### 使用言語

日英併用

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7723	ナンバリング	KB-CRC-133-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	瀬尾 匡輝				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

短期海外研修I（ベトナム）

## 授業の概要/Course Overview

ベトナム・ハイフォン大学に5日間滞在し、日本語授業の見学、日本語学習者・日本語教師との交流、日本文化紹介、教壇実習を行うことで、日本語教育に関する知識を深め、海外の日本語教育の現場を理解することを試みる。

## キーワード/Keyword(s)

外国語としての日本語教育、日本語教授法、授業見学、教壇実習、学習者・教師との交流

## 到達目標/Learning Objectives

1. ベトナムの日本語授業の見学、日本語学習者・日本語教師との交流を通して、海外の日本語教育の現状を理解し、学習者に応じた教育実践の在り方について考え、説明できる。
2. 日本語教育プログラムで学んだ知識とスキルを基礎として、ベトナムの日本語学習者に向けた教案及び教材を作成し、授業を行うことができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：プログラム説明会（プログラム概要の説明）  
 第2回：ベトナムの日本語教育について知る  
 第3回：危機管理講座、旅行会社による事務手続き

以上の第1～3回までは茨城大学で行う。参加者が全員参加できるよう、参加者の時間割を調整したうえで、授業時間を決定する。

第4回～14回：ベトナム・ハイフォン大学に5日間滞在し、以下の活動を行う

<活動内容>

- 1.日本語授業の見学
- 2.日本語授業のお手伝い（会話パートナー、作文・宿題添削、教材作成補助等）
- 3.日本語授業での教壇実習
- 4.日本語学習者に向けた日本文化の紹介活動
- 5.日本語学習者・日本語教師との交流会への参加
- 6.ハイフォン日本語教育研究会の月例会への参加

第15回：帰国報告会/帰国報告書の提出

【授業外学修】

渡航前の事前準備

1. シラバスの参考書に記載された書籍を読み、日本語教育に関する理解を深める。
2. 教室外でグループのメンバーと会い、ベトナムで行う日本文化紹介や教壇実習、交流会の準備を行う。

#### 海外研修期間中

1. 授業見学・参加の前には、見学授業の使用教材を予習し、指導項目等を確認して臨む。
2. 授業見学後には、授業の流れや学習者の様子、指導項目の説明の仕方や学生への指示等について、気づいたことや自分自身の授業に生かせる点を書き留める。
3. 教壇実習に向けて、使用教材だけでなく参考書等を用いて指導項目についての理解を深める。
4. 教壇実習に向けて、指導教員及び他の学生からの助言や提案を参考にし、教案・教材を作成する。助言に基づき、改善に取り組む。
5. 教壇実習後は反省点をまとめ、改善に取り組む。

#### 帰国後

1. 5日間の研修で学んだことをまとめたふりかえりレポートを提出する。

#### 【アクティブラーニング】

ハイフォン大学の教員や授業担当教員と協議して以上のような活動を行うため、アクティブ・ラーニングの要素としてはピア・インストラクション、学生授業、サービスマーケティング、当日レポート方式等が含まれる。

## 履修上の注意/Notes

- ・本研修に参加するにあたり、日本語教育プログラムの「日本語教授法I」を履修済みである必要がある。
- ・12月上旬までに【締め切り日は10月頃確定】グローバル教育センターに申し込んだ者のみが参加できる。
- ・応募多数の場合は、志望理由をもとに選考を行う【最少催行人数3名、最大10名】。
- ・研修費用は、10万円前後を予定している【費用は10月頃確定】。

## 情報端末の活用

事前研修及び海外研修期間中にPCを使用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを十分に修得し、さらに的確な授業を行うことができている。
- A : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを修得し、さらに的確な授業を行うことができている。
- B : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを概ね修得し、さらに授業を行うことができている。
- C : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを最低限の修得をしており、授業を行うことができている。
- D : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルが修得できておらず、授業を行うことができいない。

## 成績の評価方法/Grading

1. 積極的参加及び貢献度 20%
2. 文化紹介活動 25%
3. 教壇実習 25%
4. 帰国報告書 30%

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	日本語教育への道しるべ
著者名	坂本正, 川崎直子, 石澤徹 監修
出版社	凡人社
出版年	2017
ISBN	4893589253
教材費	1800

参考書2

書名	日本語教育への道しるべ
著者名	坂本正, 川崎直子, 石澤徹 監修
出版社	凡人社
出版年	2017
ISBN	4893589261
教材費	1800

参考書3

書名	日本語教育への道しるべ
著者名	坂本正, 川崎直子, 石澤徹 監修
出版社	凡人社
出版年	2017
ISBN	489358927X
教材費	1800

参考書4

書名	日本語教育への道しるべ
著者名	坂本正, 川崎直子, 石澤徹 監修
出版社	凡人社
出版年	2017
ISBN	4893589288
教材費	1800

参考書5

書名	超基礎・日本語教育
著者名	森篤嗣 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	4874248039
教材費	1600

参考書6

書名	日本語：日本語を教えるあなたに贈る応援マガジン：日本が変わる。日本語教師も、変わらなくちゃ。
著者名	

出版社	アルク
出版年	2019
ISBN	4757433697
教材費	1500

参考書7

書名	日本語教育 学のデザイン：その地と図を描く
著者名	神吉宇一 編著
出版社	凡人社
出版年	2015
ISBN	4893588931
教材費	2600

参考書8

書名	日本語教育学を学ぶ人のために
著者名	青木直子, 尾崎明人, 土岐哲編
出版社	世界思想社
出版年	2001
ISBN	4790708918
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

## 使用言語

日本語

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7724	ナンバリング	KB-CRC-133-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	瀬尾 匡輝				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

短期海外研修Ⅱ（ベトナム）

## 授業の概要/Course Overview

ベトナム・ハイフォン大学に5日間滞在し、日本語授業の見学、日本語学習者・日本語教師との交流、日本文化紹介、教壇実習を行うことで、日本語教育に関する知識を深め、海外の日本語教育の現場を理解することを試みる。

## キーワード/Keyword(s)

外国語としての日本語教育、日本語教授法、授業見学、教壇実習、学習者・教師との交流

## 到達目標/Learning Objectives

1. ベトナムの日本語授業の見学、日本語学習者・日本語教師との交流を通して、海外の日本語教育の現状を理解し、学習者に応じた教育実践の在り方について考え、説明できる。
2. 日本語教育プログラムで学んだ知識とスキルを基礎として、ベトナムの日本語学習者に向けた教案及び教材を作成し、授業を行うことができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：プログラム説明会（プログラム概要の説明）  
 第2回：ベトナムの日本語教育について知る  
 第3回：危機管理講座、旅行会社による事務手続き

以上の第1～3回までは茨城大学で行う。参加者が全員参加できるよう、参加者の時間割を調整したうえで、授業時間を決定する。

第4回～14回：ベトナム・ハイフォン大学に5日間滞在し、以下の活動を行う

<活動内容>

- 1.日本語授業の見学
- 2.日本語授業のお手伝い（会話パートナー、作文・宿題添削、教材作成補助等）
- 3.日本語授業での教壇実習
- 4.日本語学習者に向けた日本文化の紹介活動
- 5.日本語学習者・日本語教師との交流会への参加
- 6.ハイフォン日本語教育研究会の月例会への参加

第15回：帰国報告会/帰国報告書の提出

【授業外学修】

渡航前の事前準備

1. シラバスの参考書に記載された書籍を読み、日本語教育に関する理解を深める。
2. 教室外でグループのメンバーと会い、ベトナムで行う日本文化紹介や教壇実習、交流会の準備を行う。

#### 海外研修期間中

1. 授業見学・参加の前には、見学授業の使用教材を予習し、指導項目等を確認して臨む。
2. 授業見学後には、授業の流れや学習者の様子、指導項目の説明の仕方や学生への指示等について、気づいたことや自分自身の授業に生かせる点を書き留める。
3. 教壇実習に向けて、使用教材だけでなく参考書等を用いて指導項目についての理解を深める。
4. 教壇実習に向けて、指導教員及び他の学生からの助言や提案を参考にし、教案・教材を作成する。助言に基づき、改善に取り組む。
5. 教壇実習後は反省点をまとめ、改善に取り組む。

#### 帰国後

1. 5日間の研修で学んだことをまとめたふりかえりレポートを提出する。

#### 【アクティブラーニング】

ハイフォン大学の教員や授業担当教員と協議して以上のような活動を行うため、アクティブ・ラーニングの要素としてはピア・インストラクション、学生授業、サービスマーケティング、当日レポート方式等が含まれる。

## 履修上の注意/Notes

- ・本研修に参加するにあたり、日本語教育プログラムの「日本語教授法I」を履修済みである必要がある。
- ・12月上旬までに【締め切り日は10月頃確定】グローバル教育センターに申し込んだ者のみが参加できる。
- ・応募多数の場合は、志望理由をもとに選考を行う【最少催行人数3名、最大10名】。
- ・研修費用は、10万円前後を予定している【費用は10月頃確定】。

## 情報端末の活用

事前研修及び海外研修期間中にPCを使用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを十分に修得し、さらに的確な授業を行うことができています。
- A : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを修得し、さらに的確な授業を行うことができています。
- B : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを概ね修得し、さらに授業を行うことができています。
- C : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを最低限の修得をしており、授業を行うことができています。
- D : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルが修得できておらず、授業を行うことができていない。

## 成績の評価方法/Grading

1. 積極的参加及び貢献度 20%
2. 文化紹介活動 25%
3. 教壇実習 25%
4. 帰国報告書 30%

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	日本語教育への道しるべ
著者名	坂本正, 川崎直子, 石澤徹 監修
出版社	凡人社
出版年	2017
ISBN	4893589253
教材費	1800

参考書2

書名	日本語教育への道しるべ
著者名	坂本正, 川崎直子, 石澤徹 監修
出版社	凡人社
出版年	2017
ISBN	4893589261
教材費	1800

参考書3

書名	日本語教育への道しるべ
著者名	坂本正, 川崎直子, 石澤徹 監修
出版社	凡人社
出版年	2017
ISBN	489358927X
教材費	1800

参考書4

書名	日本語教育への道しるべ
著者名	坂本正, 川崎直子, 石澤徹 監修
出版社	凡人社
出版年	2017
ISBN	4893589288
教材費	1800

参考書5

書名	超基礎・日本語教育
著者名	森篤嗣 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2019
ISBN	4874248039
教材費	1600

参考書6

書名	日本語：日本語を教えるあなたに贈る応援マガジン：日本が変わる。日本語教師も、変わらなくちゃ。
著者名	

出版社	アルク
出版年	2019
ISBN	4757433697
教材費	1500

参考書7

書名	日本語教育 学のデザイン：その地と図を描く
著者名	神吉宇一 編著
出版社	凡人社
出版年	2015
ISBN	4893588931
教材費	2600

参考書8

書名	日本語教育学を学ぶ人のために
著者名	青木直子, 尾崎明人, 土岐哲編
出版社	世界思想社
出版年	2001
ISBN	4790708918
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

## 使用言語

日本語

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--